

# 被災文化財等救援活動における人材育成

○神庭信幸（東京国立博物館）、八木三香（NPO 法人文化財保存支援機構）、本多文人・熊谷賢（陸前高田市立博物館）、赤沼英男（岩手県立博物館）

## 1. はじめに

NPO 法人文化財保存支援機構と東京国立博物館は共催で、文化財保存修復の専門家を目指す学生及び社会人、あるいは既に社会で活躍している専門家の再研修の場として、「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」を 2008 年度から開始した。レベルⅠは基礎編として、座学を中心に年間約 10 日間の研修を行い、2 ヵ年修了生に対しては更にレベルⅡとして実践的なカリキュラムを提供している。1 年あたり 2 週間の教育プログラムを 2 年に渡り、約 120 時間の研修を受けて修了するコースで、毎年 30 名余りが参加している。カリキュラムは講義を中心にして、ワークショップ、施設見学などを織り込みながら構成されている。

レベルⅢは、保存修復の現場において 1 週間程度の実践的な作業を体験するプログラムで、毎年 10 名程度を受け入れている。研修内容としては、例えば歴史的な町屋建造物に保管されてきた民具や文書などの保存管理について、建造物の内部で調査、予防、応急処置などを実際に体験させる等のプログラムを組んでいる。段階的な教育プログラムの用意と、それに沿った研修環境を整えることによって、使命感、技術、状況判断を実践的な場において学び、それによって専門家に必要な実践的な能力を養成することに努めている。

## 2. 陸前高田学校の開催

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受け、多くの専門家やボランティアが現場に赴いた。しかし当事被災文化財の応急処置に対する知識や情報は必ずしも共有されておらず、特に外部と遮断された現場は手探りの状況が続いたと聞き及んでいる。こうした状況を踏まえ、平成 24 年度からセミナーレベルⅡを、東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市立博物館、及びその救援活動を行っている岩手県立博物館において開催することとした。これは現地の要望でもあった。今回は特に被災文化財の危機管理に焦点を当てたセミナーとして、平成 24 年 7 月 30 日（月）から 8 月 6 日（月）まで 13 名の受講者を迎えて開催し、「陸前高田学校」と名づけた。

今回のセミナーでは目的を以下のように設定した。(1) 被災文化財への対応を学ぶことで、さまざまな被災資料の安定化処理や環境整備などを通じて文化財の危機管理を学ぶこと。(2) 人と文化財の関わりを学ぶ ことで、博物館の復興を目指す人々と共に学ぶことで、判断力とコミュニケーション能力の育成を目指す。さらに、文化財が人と社会の復興とどのように結びついているか身をもって学ぶこと。(3) 情報の交流 では、研修生と講師陣が現地で作業に当たることにより、被災地外で検討された技術情報を被災地に提供する。一方、被災当初から現地で継続的に救援活動にあってきた人々のノウハウを学ぶことにより、より実践的な応用力が鍛えられる。また、被災区域から参加した受講生が、学んだ情報を地元を持ち帰ることで、被災地各地に知識と情報を普及することをめざす。更にここで培われた個人レベル、組織レベルの情報ネットワークが、将来的な災害発生時に役立つことを目指す。



開校式集合写真

レベルⅡカリキュラム	
基礎編 1 週	20 時間
実践編 1 週	20 時間
応急処置編 1 週	20 時間
応急処置編 2 週	40 時間
合計	100 時間

受講生内訳

## 3. カリキュラム

参加者は以下の通りである。レベルⅠの修了生が 7 名、内訳は博物館・資料館勤務 2 名、装こう関係 2 名、保存材料販売業 1 名、学生 2 名である。被災区域からの参加者は 6 名で、内訳が博物館・資料館勤務 4 名、自治体生涯学習課 1 名、学生 1 名であった。カリキュラムは表 1 に示した。



洋書の安定化処理



ディスカッション

項目	内容	講師
1	基礎編 1 週	神庭信幸
2	基礎編 2 週	神庭信幸
3	実践編 1 週	熊谷賢
4	実践編 2 週	熊谷賢
5	応急処置編 1 週	赤沼英男
6	応急処置編 2 週	赤沼英男
7	応急処置編 3 週	赤沼英男
8	応急処置編 4 週	赤沼英男
9	応急処置編 5 週	赤沼英男
10	応急処置編 6 週	赤沼英男
11	応急処置編 7 週	赤沼英男
12	応急処置編 8 週	赤沼英男
13	応急処置編 9 週	赤沼英男
14	応急処置編 10 週	赤沼英男

上：カリキュラム

右：担当講師

項目	内容	講師
1	基礎編 1 週	神庭信幸
2	基礎編 2 週	神庭信幸
3	実践編 1 週	熊谷賢
4	実践編 2 週	熊谷賢
5	応急処置編 1 週	赤沼英男
6	応急処置編 2 週	赤沼英男
7	応急処置編 3 週	赤沼英男
8	応急処置編 4 週	赤沼英男
9	応急処置編 5 週	赤沼英男
10	応急処置編 6 週	赤沼英男
11	応急処置編 7 週	赤沼英男
12	応急処置編 8 週	赤沼英男
13	応急処置編 9 週	赤沼英男
14	応急処置編 10 週	赤沼英男

## 4. 成果

被災した地域の博物館スタッフと共に、被災資料を保管する現場で、被災した資料に直接向き合いながら学ぶことは、机上の空論ではなく、使命感、あらゆる状況に対処できる技術、状況判断などを身をもって学ぶことにつながる。ここで培われたネットワークとリアリティーをもった実践経験が、将来起きるかもしれない災害に役立ち、国内のみならず海外でも被災文化財の救援に寄与してくれることを願っている。また、研修を受ける時間もなく、膨大な被災資料の処理に日々立ち向かう博物館スタッフに対し、今回のセミナーを通じて基本的な保存の考え方を共に学ぶ機会を提供できたも大きな成果であると考えている。



貝類標本の安定化処理



被災現場見学



民具の安定化処理

## 謝 辞

セミナーの開催に際しては、(独)芸術文化振興基金、(公財)文化財保護・芸術研究助成財団、中央共同募金会の助成を受けた他、ストウ・バスケタリィ・フェスからの寄付を活用させていただいた。また、多くの団体・個人にご支援を頂戴しました。ここに記して深く申し上げます。

2013 年 7 月 20 日 文化財保存修復学会